

「碑」の基礎工事始まる



「碑」 建立予定地で、コンクリート打設。2月21日

般若寺境内で

2月21日午前8時半、岡崎市から榑下川石材社長・鈴木唯師さん、中野石工芸社長・中根孝治さんと彫刻家・坂口紀代美さんが、般若寺に到着。工藤良任住職と挨拶。早速、モニュメント基礎・縁石工事に着工しました。

用地の整地、モニュメントの位置の確定、コンクリートの打設など手際よく作業を進め、2ページ下段にみられる様に、「碑」などの設置場所の基礎はしっかりと固められました。

この日、寒波到来で、岡崎を出発するときは、くるぶしが埋まるほど積雪があったとのこと。水仙の香り漂う般若寺境内にも小雪が舞う中、4月30日の除幕式に向けて、着々と進んでいることが確認できました。

4・30 除幕式へ大きな一歩

ヴェルダ・マーヨ通信
ヴェルダ・マーヨ(緑の5月)は長谷川テルのエスプレッソト名

NO. 40

2023.3.00

奈良・長谷川

☎/F0742-61-7194

「碑」の設置位置を慎重に決め、正確にレベルや採寸。



位置の確認。坂口紀代美さんと作業員。2023年2月21日、「碑」設置予定地で



「碑」の設置場所と3言語の説明板の位置が見えてきました。

「山吹燃ゆる」

坂口紀代美さんのメッセージを紹介します。用地の基礎工事に関する設計や、石材の確保など、総合的な取り組みをしています。写真では、「石碑」の上部の制作過程がよく分かります。



当初から持っていたイメージのタイトルです

寒暖の日が入り混じるこの頃です。

こうやって春に向かってゆくのかと思うと、感慨がありますね。

顕彰碑彫刻上部のイメージ模型と、作者銘板200角を添付いたします。

■黒くみえる部分は、山吹の花の蠟型です。手で直接制作しました。すでにさいたま市のブロンズ工場に送っており、真鍮の鋳物になります。真鍮の枝に、金色を感じる真鍮の山吹の花を溶接して開花します。その時はまた、私は、さいたま市の工場へ行きます。

蠟型制作風景も添付しておきます。蠟型制作は、ガスコンロを 사용합니다ので、いつもガスが来ているアトリエの一隅で行っています。白い輪の部分はステンレススチールの実寸模型です。テルさんの志が実ることを丸い輪で祈っています。ステンレススチールに、

真鍮の枝を溶接する時は、また新横浜のステイル工場へ行きます。■銘板は、テルさんの顕彰碑の数ある顕彰碑の中でも、固有名詞が「山吹燃ゆる」。私が、仕事を承って、テルさんのご本を読ませていただいた当初から、持っていたイメージタイトルです。テルさんが志を強くした時間と、般若寺という場所のイメージの両方の意味が含まれています。2月21日現場で、銘板位置や彫刻本体の位置を決める時に、坂口の銘板も位置決めします。

以上、制作過程あらましです。皆さんにもたのしみに御覧いただくけたらと思います。2月16日 彫刻家 坂口紀代美

長谷川テル訪問記念の碑「建立募金大きく進む

2021年10月以来、「長谷川テル訪問記念の碑」建立募金を初めてから1年半経過しました。3月0日までに、力強いメッセージを添え、追加募金を含め延べ**400名**から**3,750,000円**を超える募金が寄せられています心からお礼申し上げます。

テルさんの反戦の志を貫いた生涯を多くの方に知っていた
だきたい

・長谷川テルさんが青春時代を過ごした、ここ奈良に、記念碑が建立されること嬉しく思います。コロナに戦争の今の時代にこそ、テルさんの短くも、反戦の志を貫いた生涯を、多くの方に知っていただきたいです。世界から戦争と不幸等と貧困がなくなることを願いつつ、貧者の一灯をお送りします。完成を楽しみにしています。

西山洋子

・山梨平和ミュージアム理事長の浅川です。当館では大月出身の長谷川テルの反戦活動を展示しております。日中友好の前進のためにも、貴事業に些少ですが送ります。

浅川 保

・4月30日に、式が順調にできますように

川合 潔

・政治の対立・戦争の不安が増す現代、人と人との交流・友好の確立が大切と思います。有意義なこの事業、必ずなすとげられること

を祈ります。

西山要一

・あの時代に愛と正義・良心を貫いた人がいた。今も求められている。
佐竹昱子

・ロシアによる戦争侵攻の今、テルの事を若い方に伝えることは大変有意義なことですね。
乾 好伸

第一次募金に応じて頂いた方の氏名（2022年4月29日以降
2022年12月6日）

これまで、「ヴェルダ・マヨ通信」NO.33、同NO.34、NO35に2022年4月27日までに募金を寄せていただいた方のご芳名は掲載させていただいていました。ここでは、その後、募金を寄せていただいた方々のご芳名を掲載いたします。（アイウエオ順、敬称略）

秋山勝彦、浅田美奈子、麻生富枝、厚見泰子、天川佐江子、荒木常男、在賀知子、有本秀子、栗田育治、井内美和子、池田隆、石橋演子、石丸典子、伊東美恵子、井上富美子、稲月典澄、岩下美佐子、上杉晴美、上農百合子、宇賀神せつ子、梅林光生、大石裕子、小澤百合子、太田隆子、大西真一、岡谷よし子、岡田博治、奥誓二、奥谷彰子、奥村功、落合智恵子、小野節子、加藤東洋、門脇元子、金治貞男、川合潔、河戸憲治郎、川合小夜子、川本雅樹、間間元、岸本哲、北川れん子、清村二郎、楠本辰作、熊井三郎、熊田眞幸、倉橋祥八郎、倉橋佳子、越山邦夫、越山のぶ子、ゴトウカズミ、小橋

清隆、小林照代、小牧薫、斎藤喜代美、斉藤ツメ、坂田一仁、坂手日登美、佐々木昭示、佐藤潔、佐藤倫理、澤田和也(2022.4.29)、澤野井公夫、塩谷章次、清水英孝、白川嘉秀、杉下ゆき子、杉林晴行、園部勝章、園部典子、染川隆俊、瀧本至、田熊健二、竹内ひろみ、竹末勤、田中澄江、田中郁、田中輝男、田中雄三、田中泰子、田辺七郎、田辺実、辰巳昌信、谷サユリ、谷原一安、樽井幸一郎、田原隆子、中馬浩子、辻久子、辻本英子、手原三郎、豊田保子、中島勉治、中森功、中村智恵子、中里力、永田京美、中西とし子、永松孝志、西里抹甬子、西田和子、西田千津、日中大阪府連中河内支部、西本文子、西山洋子、西脇義彦、浜中達也、平井利子、檜山尚美、日和佐素子、福味和子、藤垣全弘、舟山守夫、細野歩、堀好子、牧田啓祐、榊井隆志、松岡敏之、松下稔、松下光人、眞殿天童、松並君子、水谷和宏、水谷奈美、溝川悠介、三村純子、峯克彰、宮城恭子、村口偕子、諸富健、八木勝光、安井秀夫、藪坂明、山上浩功、山田トシエ、山崎秀子、山田奉子、山村弘成、横田利孝、吉川好胤、吉田忠雄、渡辺倫子、渡辺浩、匿名者数名

追加募金

目標に大きく近づく

「碑」建立のための追加募金(目標額160万円)を、昨年12月9日これまで第一次募金の訴えに応えて募金を寄せて頂いてきた方に、募金を広げていただくことをお願いいたしました。

これに応え、「追加募金につきまして、歴教協のMLに発信した

ところさつそく、何人もの方から協力しますというメールを戴きました。4月30日に、般若寺に参りたいと願っています。」「長谷川テル顕彰碑建立の募金、順調に進んでいることと思います。」と、募金を訴えたかたの氏名を知らせ頂いた方、「大学時代の友人たちにテルさんの話を少ししたら数人からはカンパもいただきました。」と報告される方など、多くの方が目標達成に向けて力を発揮していただいています。

第一次募金に次いで再度募金に応じて頂いた方と新たに募金を寄せて頂いた方を合わせて掲載いたします。

追加募金に应邀いただいた方の氏名(2022年12月12日〜2023年2月21日)

在賀知子、浅川保、浅野千明、麻生富枝、栗田育治、飯田きよ子、飯野恵子、池谷たき、池本恭代、石田隆子、井出淑子、井出啓二、井出淑子、伊藤恵美子、稲次征人、稲月典澄、稲次直樹、乾好伸、岩崎知子、宇賀平、梅林光生、大石裕子、太田隆子、太田広子、大沼正博、大類善啓、岡田博治、沖野順子、奥西正史、奥村功、小澤百合子、小野節子、小高平男、小野節子、薫暁、加藤昌克、加藤真知、門脇元子、蒲豊彦、川合潔、川本信子、岸下あづみ、北浦吾郎、キタガワイクコ、北林ふみ子、木元靖浩、桐野さち子、楠、国富智子、熊井三郎、熊田眞幸、景興宇、鯉島民子、鯉島民子、越山邦夫、越山のぶ子、小林晃、小林ひとみ、小林将夫、小牧薫、坂田一仁、坂本ミリアム、佐竹昱子、澤田博、澤田文子、沢野井公夫、清水英

孝、杉下ゆき子、杉林晴行、杉本高子、**杉村征朗**、杉山文彦、染川隆俊、橿町賢治、高嶋道、高杉一郎、高橋和子、竹内ひろみ、竹村照雄、竹森浩俊、滝永登、巽基安、辰巳陽子、田中、田中澄江、田中泰子、田辺茂子、田辺七郎、田辺実、田邊良彦、谷さゆり、谷原一安、田原隆子、樽井幸一郎、土田謙次、中島晃、中島枝美子、内藤明子、中塚明、中塚恒子、中出律、中西とし子、中村大真、中森功、永田京美、二木徹、西久美子、西田志保子、西田千津、西田延広、西山要一、西山洋子、野々村耀、橋本草子、濱中達也、林隆、林秀行、原木とし子、稗田、東良江、檜山秋彦、平井利子、平井富勝、平塚雅子、平松悦雄、日和佐素子、福寫繁男、藤田百合子、舟山守夫、堀好子、益永陽子、松尾豊、松岡敏之、松下哲子、マツムラシンイチ、水谷和宏、水沼安美、溝川悠介、光吉道子、宮城恭子、宮城雄大、森田武司、諸富健、八木勝光、山田照子、山田泰子、湯浅恵子、湯川諠、吉田忠雄、芳田美香、渡辺武、

●追加募金の目標達成めざし

「碑」建立のための追加募金（目標額160万円）は、年末に要請の手紙を送ると同時に次々と寄せられています。3月7日現在、追加募金は153名から、合計1,500,923円です。目標額160万円にかなり近づいています。（あと10万円ほど）

新たな注目を集める映画「望郷の星 長谷川テルの青春」

米中間の対立激化のなかで、“台湾危機”が煽られています。この

様な状況の下で、日中不戦の誓いはかつてなく重要な意義をはらんでいます。日中戦争の真つただ中、戦火し下の中国で、日本兵士に対して、反戦平和をラヂオ放送で訴えぬいた長谷川テルを描いた映画「望郷の星 長谷川テルの青春」（主演栗原小巻）が新たな注目を集めています。さる2月26日、大阪ドーンセンターで行われた「あの戦争はなんだったのか映画祭」で、上映会されました。この日の「映画祭」で同映画を鑑賞された中西とし子さんから感想が寄せられています。

テルと中国の方々との交流など心温まる場面も

中西とし子 6

最初は、中国から遺児お二人が、母の軌跡を訪ねるため来日するドキュメンタリーのような形で始まり、最後は、兄妹が旅を終えて、「再見」の言葉を交わし、笑顔で別れるシーンで終わりました。

その間に、栗原小巻さんの演じるテルさんの人生、奈良高等女子師範時代↓治安維持法下での退学↓東京でエスペラント活動を通じて劉仁との出会い、結婚↓中国渡航（以後、日本の土を踏まず）↓日中関係悪化、さらに開戦の中、各地転々↓その中での出産、子育て、そして、日本兵さんたちに向けた反戦放送↓第二次世界大戦は終結するものの、中国は、国民党・共産党の内戦↓その中での死去（感染症）が 挟まれています。

つくづく、戦争とは何とむごいものか、誰をも幸せにしないことが胸に迫り、テルさんの、中国人、日本人どちらの命も大事、殺し合いは止めようと言う訴えの真つ当さを、ひしひしと感じました。

当然ながら、辛いシーンも多かったですけど、その中で、劉仁テル夫婦の労わり励まし合い、いとし子への思い、テルと中国の方々との交流など、心温まる場面に、救われました。反戦放送の所は、言葉も内容も明確、テルさん（小巻さん）の表情がとても美しかったです。

映画では、日本語、中国語、エスペ란ートの三つの言葉が使われていました。夫婦がエスペ란ートで会話している個所は、聞き取れる所があり、実力は伴っていませんけれど、エスペランティストとして鑑賞できて、嬉しかったです。

中国の場合、日本の敗戦・撤退後も、内戦がこんなにも悲惨だったのですね。朝鮮戦争は、実は今も終わっていないとか、これが日本だったらと思うと、想像を絶しました。

とにかく、武力行使で解決？！しようと言う、戦争の仕組みそのものを、廃絶しなければ。いまさらながら、戦争放棄の憲法第九条の尊さを感じています、お花畑と揶揄されようとも。

映画の中で、テルは、「私は人間を信じたいの。」と書いていました、非人間的としか言いようのない、状況の中で。アンネ フランクも日記の中に「いつでも、どんな時でも、人間は、本当はいいものなんです。」との言葉を残しています、15歳で命奪われた少女が。

お花畑かも知れないけれど、酷い事が多過ぎるけれど、それでも希望を見出て行こうと、願わずにいられません。

権力者が猛威を振るい破壊しつくしても

真実を求める人がいる限り決して消えることはない

田中澄江

「ヴェルダ・マーヨ通信」No. 39を受け取りました。毎回丁寧な記録を取られ、奈良・長谷川テル顕彰の会の皆さんの顕彰活動への強い思いに満ちた熱気が伝わってきます。

西田さんの研究ノートについては遅ればせながら読ませていただきました。田辺さんを始めとして大類さんのご自身の著書とも照らし合わせての厚みにある感想も読ませていただき、今回の、奈良・長谷川テル顕彰の会会員でもある西田さんの研究者としての探求心に、心より賛辞を贈りたいと思いました。

研究ノートは、「女性・戦争・人権」学会の学会誌が『「特集」三〇年、証言の政治を振り返る——私たちが継承するもの』に、奈良・長谷川テル顕彰の会会員でもある西田千津氏が「エスペランティスト長谷川テルの女性解放論に関する若干の考察」として寄稿されたものです。日本における女性の立場について、人権が如何に阻害されてきたか。しかも「良妻賢母」「大和撫子」の名のもとに、さも優しい従順な女性の姿に込められた男性優位のあくまでも家族や社会への陰のような支え(使用人扱い)とされたか。それは戦争により一層加速され、低賃金での労働力としても強いられてきた、長

谷川テルが、ここまでストイックに社会を見つめ、日本帝国主義への本質を見つめるようになったのか、あくまでも虐げられ底辺にいる女性の立場からのテルの行動であったかを研究ノートは伝えていきます。

テルは具体的な非暴力への四つの提案までして

グローバルな発信を続けた

「戦争」での非人間的な行動、と一言で語れないことであり女性が巻き込まれていく悲惨な史実として掘り起こし克明に綴ってくれている。それはテル自身がエスペランティストとして生きた事が基本になっていること。慰安婦にされた中国女性に自ら取材し見聞した実情を伝え発信したのは、戦争により人が如何に非人道な行動に変貌していくか。その姿に警鐘を鳴らしたかったに違いない。エスペラントで国による差異なく平和な社会を、誰の命も大切に。と世界へ発信し日本の帝国主義による中国の惨事を伝えたこと。こんなテルの活動がなぜ日本で知られていないのか。それが日本帝国主義による軍事戦略で徹底した加害の隠蔽に他ならないという事。女性への戦時性暴力は単に暴欲を満たすことだけにとどまらず、墮胎薬を飲ませたり、用が終われば殺す。その国の根絶やし思想にもつながるという事であり、今も世界のどこかで起きている。

テルは具体的な非暴力への四つの提案までしてグローバルな発信を続けた。中国の平和がアジア全体の平和につながるという日本帝国主義への本質的な問題も突きつける。そんなことがテルの発信した文書や手紙から明らかに浮かび上がる。「慰安婦ってお金をもら

ってたんですよ。」今も日本人の多くが思っているらしいが、実情をあらさまに語るテルの活動が、日本の帝国主義者は基より、古き良き日本女性の生き方を良しとする価値観にとらわれた人々からすれば言語道断の事だったわけで、徹底した排斥をし「嬌声の売国奴」と揶揄し日本国籍抹消した。知られたくない加害や侵略の内実を葬りたかったのだという事が伺える。

顕彰活動は、西田千津氏のような研究者が様々な形で丹念に調べ積み重ねる、裏付となる物証を掘り起こし確証とする。そんな人が多様な分野の研究者により相乗効果のように明らかにになっていく。権力者が猛威を振るい破壊しつつくしても、真実を求める人がいる限り決して消えることはない。物理的にも消し去ることは不可能なのだろうと思うのと、人は心のどこかに残るかすかな善により消せない記憶であったり文章であったりするのかと思います。それが時を経て人々の前に明らかにされ、歴史を塗り替えることはできないのだということが改めて感じさせられます。そういう意味でも記録は後の人への大きな道標として続けたいといけない。通信を合本としてまとめ形に残すことも、その一端としての役割を担っていくのだと思います。(たなかすみえ…奈良長谷川テル顕彰の会推進委員)

響きあう「ヴェルダ・マーヨー長谷川テルの歌」

反戦平和にした長谷川テルの人生への賛歌「希望の鳩 ヴェルダ・マーヨー長谷川テルの歌」が、戦争を直接知らない少年少女の

心に響いています。ここでは、ご自身の授業で取り上げ黒田貴子先生のレポートと、この「歌」を詞作曲されたケイ・シュガーさんの感想を紹介します。

中学生の心に響いた『ヴェルダ・マーヨ』の歌

黒田貴子

「僕たちのクラスは、『ヴェルダ・マーヨ』がブームなんです。全員が歌詞を覚えているんだよ」。中学二年生の生徒の言葉に驚くとともに喜びが湧き起こってきました。

私は、中学二年生の現代史の授業を、週一回だけ担当する講師です。公立の中学校退職後、今の学校に勤務して一〇年になります。五年戦争の授業の中では、日本における反戦・抵抗の授業を一時間おこなってきました。今年度の授業では、小林多喜二、渡部良三、そして長谷川テルを取り上げました。小林多喜二の遺体の拷問の跡、「ほれ、多喜二！もう一度立ってみせねか！」という母の言葉。渡部良三の短歌からは、刺突訓練の凄惨な実態から日本軍について。「虐殺（ころ）されし 八路（はちろ）と共に この穴に 果つる」ともよし「殺すものかや」という渡部良三の決意。そして長谷川テルについてです。彼女の生き方と「なくしてしまつたふたつのりんご」の話をして、最後に歌詞を配り『ヴェルダ・マーヨ』を聴きました。間奏の時に、少し補足したり、「ケイ・シュガーさんの本名は、佐藤圭子さん」（これを言うと、生徒たちは喜びます）と明かしたり。最後のリフレインが終わると、ちょうど授業の終わりの時

間となります。生徒たちは、この歌を心に響かせながら、社会科室を出ていくのです。

私の所属する歴史教育者協議会（歴教協）の平和教育分科会では、戦争を「被害」「加害」「加担」「抵抗」の四つの観点から捉えることが提案されてきました。とりわけ、「抵抗」という「もうひとつの生き方」について知ることは、生徒に大きな感銘を与えます。みんなが時代に流されて行ったときに、こんな生き方をした人がいたということに、生徒たちは希望を感じ、自分自身の生き方を問うことにつながるのです。いま、長谷川テルのことを顕彰し、奈良のお寺にその碑を建てようという運動があること、私も少しだけけれど、その運動に関わっていることも話しました。そんな活動をされている方々がおられるということ、目の前の教員がそのことに関わっていることを伝えたいと思いました。

長谷川テル、そして『ヴェルダ・マーヨ』について生徒たちのノートに書かれた感想を紹介します。

私は特に1番の歌詞が好きです

「裏切り者と呼ばれても」というところ

◆私は特に1番の歌詞が好きです。「裏切り者と呼ばれても」というところ。最初、この言葉で勇ましく始まるのが好きなんです！長谷川テルさんの反戦平和への強い思いや、自身を貫くたくましさ、そしてそこから生み出される数々の言葉や行動が本当に心に刺さりました。（こはるさん）

◆1番には、長谷川テルの思いが直接的に書かれているなど感じま

編集後記

いよいよ、4月30日には「長谷川テル訪問記念の碑」の除幕式を遂行できることになりました。4月30日は、91年前の1932年の同日、長谷川テル（以下「テル」）が学友・長戸恭と般若寺境内を訪ね、「閉塞的・抑圧的社会のありようと闘おう」と誓い合った記念すべき日です。

工藤良任般若寺住職のご好意で、同寺境内に「碑」建立のための用地を提供していただいたことで、「碑」建立が可能となりました。そして、当「通信」が伝えるように、多くの方の募金に支えられ、彫刻家・坂口紀代美氏によって、「碑」の制作が進められています。

また、ケイ・シュガー作詞作曲のテルの生涯が歌いあげられた「希望の鳩 ヴェルダ・マールヨール長谷川テルの歌」を通じて進められているように、テルの顕彰事業が様々な形で進められていることも心強いことです。

米中対立激化のなかで、日本がアメリカ軍の指揮下で米軍と一体となって中国との軍事紛争に巻き込まれかねない危険な事態に直面している今日、「日中不再戦の誓い」を守る運動の重要性がかつてなく重要となっています。

こうした時に、命がけで反戦平和を訴えぬいたテルの事績の顕彰は、極めて重要な意義をおびており、「碑」除幕式と「テル顕彰事業全国交流集会」を契機として、テルの顕彰事業が日中不再戦の国民的運動の重要な一端を担って発展することを期したいものです。

奈良・長谷川テル顕彰の会 事務局長 田辺 実